

■ キリシマイワヘゴ

Dryopteris hangchowensis

(平成19年9月7日指定)

徳島県における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類
環境省における指定状況：絶滅危惧ⅠA類
その他の指定：該当なし

種の概略

1) 特徴

常緑性のシダで、根茎は短く、直立して葉を叢生する。葉柄は長さ8-15cm、密に鱗片をつけ、基部の鱗片は黒褐色～褐色の線状披針形、先端は長く伸び、縁には顕著な突起がある。葉身は披針形で、長さ25-50cm、幅12-16cm、上から1/4-1/2付近が最も広く、先に向けて細くなり、先端は鋭く尖る。基部の羽片は短くなる。羽片は中裂し、孢子嚢群は中肋と辺縁の中間まで広がる。一見ワカナシダに似ているが、葉の表面の脈は凹まず、下部羽片の基部は上側(内側)の裂片が一つ独立する。葉軸下部の鱗片の辺縁には、他のイワヘゴ類に比べて多数の顕著な突起があることなどで見分けられる。

2) 生育環境

山地の腐食土壌が堆積する湿潤な樹林下や溪畔に近い林縁などに生育している。

3) 繁殖生態

植物体の孢子が散布されて発芽し、配偶体が形成されることによって新しい個体が生じ繁殖する。栄養繁殖は行わない。

4) 分布

四国(徳島県)、九州(宮崎県)、中国に分布する。タ

イプ産地は中国。

本種は国内では宮崎県と本県にしか分布が知られておらず、隔離的に分布している種である。

宮崎県に大きな群生地があったが、ニホンジカの食害によりほぼ絶滅状態であるといわれる(南谷2005)。食害による激減で、環境省RDBのランクは準絶滅危惧(2000年)から絶滅危惧ⅠA類(2007年)に変更された。国内の自生地に現存しているのは、本県のみとなる可能性も否定できない状況である。

生育地と生育状況

生育地：徳島県那賀町

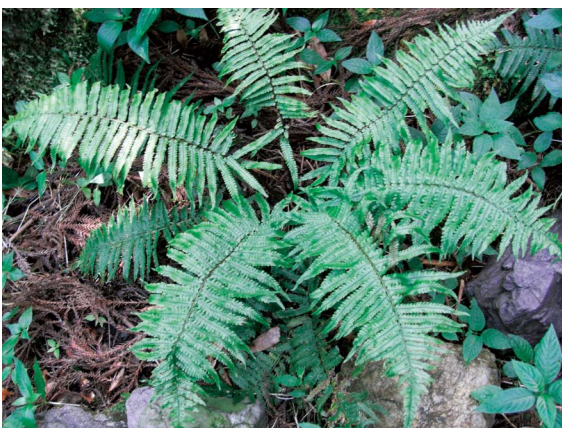
徳島県内での生育地は1カ所のみで、生育環境は溪流に近いスギ植林地の腐食土壌の堆積する平坦地である。溪流から供給される適度の空中湿度と適潤な土壌及び林内に届く光の微妙な調和のもとで、本種の生育環境が保たれているものと考えられる。

現存する自生地は、幹の直径が約30-50cmのスギ植林地である。スギの成長に伴って林床に届く光量は不足気味となり、その影響のためか3個体ともやや貧弱である。

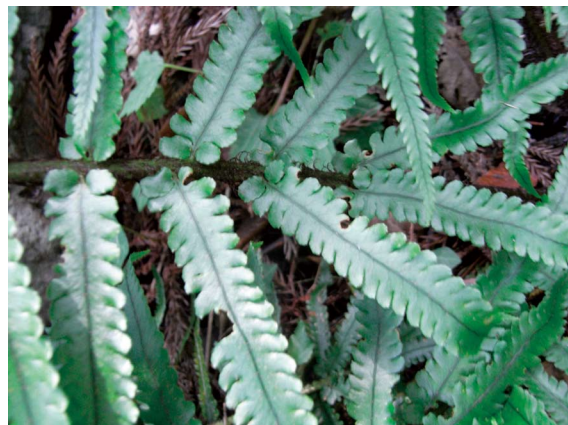
絶滅要因

1) 生育地の消失・分断

かつては林床に4株と溪畔に2株が生育していたが、溪畔のものは、2004年の台風時に流失し、林床の1個体は盗掘により無くなった。現在は林床に3個体のみが生育していて、種の存続が危ぶまれる。



キリシマイワヘゴ



キリシマイワヘゴの羽片

2) 生育地の質的劣化

台風による表土の流出と野生草食獣の食害や踏み荒らし、スギの成長による太陽光の不足などにより生育環境は劣化している。

3) 過剰な採取

一般に好んで栽培されるものではないが、希少価値が高いため過去には一部が採取されて失われた。

4) 商業取引等

シダを栽培するマニアは少なくないが、商業取引の情報はない。

5) 里山等の管理

年数を経たスギ植林地で、管理が適切に行われてきたため、林床の環境は安定している。

6) 在来種による圧迫

生育している3個体はすべてがニホンジカの食害により、葉がほとんど無くなり、そのまま放置すれば、数年の内に絶滅する状態となっていた。

保全対策

1) 地権者の理解を得る

民有地のスギ植林地であるため、伐採されれば生育環境が悪化して本種は存続できない。

存続のためにはスギ植林地の保全が最も重要である。そのため、地権者と連絡をとり、本種の貴重性、危機に瀕している現状、保護の重要性を説明し、十分な理解を得ることが大切である。

2) 防鹿ネットの設置

2007年1月に徳島県植物研究会の会員や地域有志の協力で、地権者の了解のもとに緊急措置として、防御ネットを設置した。その後も県の巡視員等の協力によりネットの補強作業を実施しており、継続的な確認が必要である。

3) 採取の防止

生育地は一部の研究者や地域の人にしか知られていないが、個体数がわずかなので、今後、栽培目的などで採取されるなどの危険性は少なくない。そのため、地権者の協力のもとに、生育地への立ち入り禁止の措置と監視などによる保護対策が必要である。

4) 生育環境の保全

生育地はトウダイグサ科のヤマアイが多く生育している。それらの草本類が過剰に繁茂し、本種を圧迫しないよう適切な管理が必要である。

5) 種の保存

2006年、大学（県外）の研究者からの要請により、研究目的及び系統保存などのため、1株が採取され栽培されている。

6) その他

今後、より良い方策を協議するとともに、研究機関とも協力して孢子培養などにより、増殖方法なども検討すべきである。

（木下 覺）



キリシマイワヘゴの保護ネット設置作業